



地域の未来を考えるまちづくり計画には、持続可能性の視点が重要である。防災、防犯、自然環境との共生、地域の活性化など、対象地域に関連する様々なデータを用いて、地域の過去、現在、未来を、空間上に表示させる。この情報を基に、より良い計画づくりに関する意思決定が行われる。本研究では、GISをはじめとするICTを都市計画に援用する手法を提案することで、持続可能なまちづくり支援を目指している。

1. 環境、防災まちづくり支援システム

津波防災、生物多様性の視点から、徳島都市圏を対象に、最適な空間利用を実現するための土地利用計画を提案する。建築活動、人口・世帯数変化から、対象地域の都市活動を把握し、災害危険性、生物多様性の評価結果と重ね合わせることで、災害危険性を最小に、生物多様性を最大に、かつ、将来の都市活動の動向を踏まえた、最適な土地利用計画図を作成する手法を開発する。

2. 歴史的市街地におけるまちづくり支援システム

歴史的市街地を対象に、防災、地域活性化の視点から、まちづくりに関する合意形成支援を目的とした、3次元GISを活用したまちづくり支援システムを開発する。

分野: 建築学

専門: 都市計画・建築計画

E-mail: kojiro [at] tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-7612